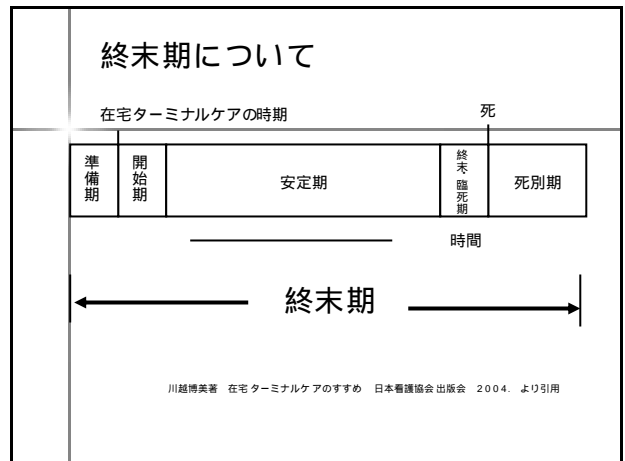


**終末期をどう生きるか**  
**在宅ケアからの報告**  
 訪問看護師・ケアマネジャーとして関わって

医療法人 啓仁会  
 居宅介護支援事業所 きずな  
 櫻井 栄子



**終末期を在宅で過ごす利点**

ご夫婦でご家族で過ごす時間があるので  
 今まで生きてきた人生と一緒に振り返る時間がある。

そして自然な形で感謝の言葉を伝えている。

余命を告知されているケースは、  
 一日一日を大切に感謝しながら生きていく。

そして健康であれば気が付かないような  
 幸せに気が付いている

「最後までその人らしい生活」と考えた時、  
 在宅にはその人らしさって何なのかを探す材料が  
 いっぱい揃っている。  
 ご家族や親戚の人などと一緒に考えられる。

その方にあった個別ケアを在宅の方が  
 家族を含めて徹底して行える。

在宅では看取った後の残された方たちの  
 ケアも継続しやすい。

亡くなった後のことも話している

在宅で終末期をよりQOLを高めて  
生きてもらうには



終末期であることを告げる。  
告知してくれる医師がいること



痛みがコントロールされていること



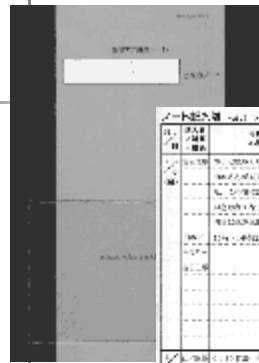
いつでも往診してくれる医師がいること。  
いつでも入院できる病院があること  
(急変時・レスパイトケアとして)



いつでも連絡ができ訪問してくれる  
訪問看護ステーションがあること。



医師・看護師・ケアマネジャー・  
ホームヘルパー・宗教関係者等  
チームで関わるのが大切



在宅で終末期を迎えるのが  
困難なケース、失敗したケース

認知症で夜昼逆転

介護者がいない。  
介護者が在宅ケアを望まない

	積極的な延命治療を希望
	ステーションからの距離が遠かった

	家で最期を迎えるために 望むこと

	訪問看護の緊急時の体制を整える
	末期がんも介護保険の適応を (65歳未満)
	看取った経験のある人との交流 (ボランティアの育成)

	病院・介護老人保健施設での ショートステイの受け入れ
	ケアの質の向上